

ビショップ(カリフォルニア) 岩質・・・花崗岩 Reported By 大西 良治

ビショップツアー2003

アメリカならず今や世界で最も有名なボルダリングエリアの一つとなった BISHOP。前回行ったのは2年前の冬。今回は12月7日から21日までの2週間の旅だ。

BISHOP はロサンゼルス北東約500kmに位置し、主なエリアとしてバターミルク、ハッピー、サッド、ドレイドストーンの4エリアがある。バターミルクとドレイドストーンは花崗岩、ハッピーとサッドは砂岩と、たまたま、近場で全く違うタイプのボルダリングが楽しめるのがこの特徴。今回のメンバーはツヨク(山本信博、京都在住)、ヤナケン(柳本健彦、静岡在住)、ミズチ(水野秀晴、島根在住)、ハチ(服部伸崇、静岡在住)、私(大西良治、東京在住)の5人。日本各地から集結したこのメンバー、わたしにとってツヨク以外は初顔合わせだったが、それぞれも味を出して、とても面白い組み合わせとなった。

12月7日、成田空港からロスへ向かう。他のメンバーは全員関西空港から、ロス空港で無事合流し、まずはレンタカーをGET。ツヨクがインターネットで見つけた「アメリカにしては格安のOKレンタカー」。5人が余裕で乗れるビッグサイズで1ヶ月1000ドルほど。怪しげなおオーナーは日本で働いていたらしく、日本語ペラペラでやりとりがスムーズ。

日本ではまずありえない、広大な荒野を快適にとぼし BISHOP へ向かう。夜には滞在先になる「PIT」と呼ばれている無料キャンプ場へ。相変わらずの荒野と、丘に張られたスラックライン。2年前に来た時と全く異なる光景だ。過去にここで過ごした日々が懐かしい。

さっそく5人がテントを張れる空地を見つけ「日本人村」を設営。今回私は2週間、他のみんなは1ヶ月ここで世話になる。明日からクライミング三昧の日々だ。

「ついに帰ってきた！」

LIFE STYLE

BISHOP は夜それほど寒くはないのだが、朝方の冷え込みが結構きつい。そのため目が覚めてからも日が昇る8時頃まではシュラフの中でウダウダ過ごし、暖かくなってきたら活動を開始するというのが今回のパターンとなった。

昼頃登り始めて夕方5時頃日が暮れ始めたら終了。

夕飯食べたなら BISHOP 郊外にある「KEOS - HOT-SPRING」(温泉)へ。360°満天の星空での温泉は最高！ BISHOP 行ったと絶対入るべし。PIT に泊まっている他の外人達も来たりにして、みんなで入る温泉はとても楽しい。注意点は夜8時以降でないとも湯温が上がりづらいらしく、それ以前はあまり温かくないという点。夕飯食べてから行けばちょうど良い。キャンプ生活はシャワーを浴びれないというのがネックだが、温泉があったおかげで疲れも取れて助かった。

後半には大阪店のユースクが来たので、みんなで厚かましくモーターに押しかけ、ペタリした頭をシャンプーでリフレッシュ。最後の晩にはモーターでパーティーまで開いてもらい、彼女の美味しい手作りカレーをご馳走になる。ほんとにいろいろお世話になりました。ありがとう！

SHOPPING

BISHOP の町に行けば基本的に何でも手に入る。

食料は「VONS」、クライミング用品は「WILSONS」。WILSONSの対面には美味しいサンドイッチ屋もある。今まで食べたサンドイッチの中で一番うまい！ジューシーなローストビーフをたっぷり挟んだボリューム満点のサンドイッチ。BISHOP 行ったら絶対食うべし。まじ感動するよ。

他にもメキシコ料理屋、ステーキハウスなどいろいろある。メキシコ料理はうまかったが量がすさまじい。半分くらいでみんなお手上げ。

すごいのはステーキハウス「FIRE GRILL」。アメリカのステーキを堪能するためと言いつつ、実は名前に惹かれたバカな4人が最高級の「トップサーロイン」を注文。「フォートップだ！」なんて言いながら期待して待っていたが、実際来たのは冷めかけた油気の強い硬い肉。「VONS」の安い肉の方がよっぽどうまい。4人と一瞬にして「フォーボトム」になる。でもデザートはホットチョコをかけたアイスがうまかったなあ。

BOULDER AREA

「BUTTERMILK」

舗装道路から BUTTERMILK LOAD」と書かれたダートに入り、丘の向こうから特徴的なクランマの先端が顔を出す。前回のツアーで脳裏に焼きついていいる一場面だ。遠くから見ると小さく見えるのは近づくと異様にデカい。

一通り課題見物した後、今回の目標の一つである「ビデオ Dosage」でお馴染みの Buttermilker (V13)」へ。実際に触ってみると右手のスローパーはオントにソリソリ。アンダーからそのスローパーを取る一手が異常に遠い。一応届くのがソソソに伸びきっているし、足が正しい所に置けない。私のリーチでは絶望的。これを登るには桁外れの背筋力が必要だろう。

おまけにデブが Dosage で登っている時に使っている一手目の右手カチが壊れて、出だしのムーブが悪くなっている。そのため現在はグレードが一つ上がって V12 から V13 に変わったようだ。

地元の話によると、その後さらにアンダー部分の結晶が取れて、右手スローパーを取りにくい一手も悪くなっているという。ツヨソヨは昨年の春に全ムーブを解決しており、あとは繋げられるかどうかという状態にまで来ていたらしいが、下部が悪くなったせいで繋げるのはかなり難しくなってしまったようだ。

次にこれまた超有名なクリス＝シャーマ初登の「Mandara (V12)」を触りに行く。スタートを取り付けるかどうかは懸念だったが、下に石が積まれているのでその上にマットを置くと何とか取り付けることができた。

とりあえず左手を持ちにくいアンダーに極めて、右手をはるか上方の極小カチに出してみる。届かずに落ちる。なんとな感覚はつかめたがかなり悪い。

Mandara の核心はアンダーからの 3手で、その後は V 8位だという。1手目は前述の左手アンダーからの右手極小カチ。2手目はその右手で耐えて左手ガストンのカチへ。3手目ははるか右上にあるカチフレークを右手で取りに行く。2手目、3手目のムーブが特に難しいのだが、1手目からして十分悪い。

ツヨソヨ ヤナケン、私の3人で何回かトライするが、ヤナケンが一手目を止めた後には全然ダメ。試しにケンを押しもらって1手目を止めた状態で取り付けてみたが、フレークの尖った薄いカチで滅茶苦茶指が痛い。力込めで持ったらあつと、間には指皮バツクリ、きそうなカチだ。足もソリソリで傾斜もあるから左手のアンダーを外したら全く体を支えられない。2手目は落ちながらかるうして手が出せるくらいで、全く取れる気がしなかった。次のホールドがガストンなので、右手カチを完全に保持してスティックで行かなければならないのだが…。外人の重い体重で保持できるのか不思議。

「V12 でこんなに悪いのかよ！」って感じた。まあそれを体感できただけでも収穫かな？ やっぱ海外ツアーに出るとすご刺激が得られていい。

もう一つのビッグネームである「Spectre (V13)」もやりこいたが、左手でリップのカチを取りに行くムーブは全く持って無理に感じた。引き手のスローパーが悪いので、足が残せないとまず止められない。ツヨソヨのリーチでぎりぎり残せるかどうかとこだ。ちなみに彼の身長は確か178cmくらい。

バターミルクで他に印象的だった課題は人づてに聞いた「Web」という課題。CAVE エリアの「Moonraker (V9)」のスタートから左上し、「Buttermilker」の上部へ抜ける課題で、V11らしいのだがではない。

昨年デブ＝グラムやスティープン＝シエフリーがトライしていたというツヨソヨが最初に興味を持ってトライし始め、ヒールやニーバーを駆使してムーブを解決。2日目で完登する。

前回登れず帰った「Stained Grass (V10)」を苦労して片付けた後、私もトライしてみる。自分でもビックリしたが、ムーブが全部わかっていておかげで何とか1撃できてしまった。多分課題のタイプがぴったり私には合っていたのだろう。後日ヤナケンも完登し、最低 V10 はあるとのこと。

(* 後日発覚したが、この Web は「Already Forgotten (V11)」の途中からスタートするものであり、しかも「Already Forgotten」の核心は最初のムーブ。どうやら Web は V11 ないらしいが、「Already Forgotten」より自然なスタートなので、課題として特に変ではなく普通に良い課題だと思った。)

他にも「Checker Board (V8)」(os)、「Soul Slinger (V8/9)」(repeat)、「Bubba Gump (V10)」、「Fight club (V10/11)」などを登った。

特筆すべきは八チが、今回一番の目標としていた「Soul Slinger」をあつさり1日で落とすことができたという点。おめでとう!

課題として印象的なのは「Fight Club」。スローパーに飛びついてスタートし、狭いマンチを返してスラブのランプを恐る恐る左上すると、変な課題。スラブの最後の抜けが結晶乗りに込みで、かつ高さもあるので非常に怖い。登る方も見る方もすごく緊張する精神的要素の強い課題だ。スリルを味わいたいという人にはお勧め。

見ただ目のかっこ良さは「Checker Board」がすごい。ツルツとした壁に碁盤目状の亀裂が走っている。一見の価値あり。ハッピーとサッドはバターミルクと比べて暖かく、陽が照っている間は冬でもTシャツで登れる。名前の通りハッピーは明るく開放的でサッドは穴蔵チックで暗い所が多い。日中はかなり指がヌメるが、気持ちよく体が動かせている。

どちらも傾斜があってホールドの大きい課題が多く、どちらかと言うとパワー系のエリアだ。高グレードは少ないが、V10位までなら面白い課題がたくさんある。

「HAPPY」

まず始めはみんなで「Hulk V6」にトライ。V6にしては難しいこのリーチ課題は前回ハマった嫌な思い出が……。ツヨク登り始めたのを機にみんな登り出す。やはりみんな何回かハマるが、ムーブが慣れるとどんどん上へ抜けていく。中でもリーチの最も無いミズチが、持ち前の保持力と身体張力で登っていたのはすごかった。

続いて、隣の岩の「Redrum V10」でセッション。

この課題は前回全く歯が立たなかった超苦手系課題。純粋にパワーを必要とする課題でツヨクも苦手らしく、私とツヨクがあきらめモードに入ったところで、ヤナケンが気合の完登を決める。やるなあ、ヤナケン。前回から気になっていた課題なので絶対に絶対落とさねばと思い、後日私もやっとレベンジ達成。ヤナケン、ミズチは「Cholos V9」もサクッと登ってしまい、ボント強い。

私が他に登った課題としてはビデオ「West Coast Pimp」に出てくる、「Toxic Abenger (V10)」や「Swordfish Trombone (V10)」などがある。「Toxic Abenger (V10)」はランジ課題、「Swordfish Trombone (V10)」はバケツループで、それぞれ系統が全く違って面白かった。

崖の上にそそり立つこの課題は自然にできたとは思えないほど全く左右対称のダブルカンテ。自然の造形美に驚かされる。ダブルカンテを挟み込んで登るためパワーを要求されるが、ランディングの3分の2が切れ落ちていくこともあり精神的要素も強い。スタートが両手開いてバソパン状態からなのでV6にしては難しく感じたが、核心で進むか降りるかの駆け引きがスリル満点でいい感じ。

いいエリアなのだが前回たくさん登ったせい、か目標となる課題が少なくヤナケン、ミズチが穴蔵テープにある「Beefcake (V10)」を狙って何度か行ったくらいで、今回あまり行く機会がなかった。

私としては「Beefcake (V10)」を一撃し損ねたのが少し残念。核心は越えていたのだが、足を滑らせて落ちてしまった。その後ヨレて登れなくなったのがお悔しい。

ヤナケン、ミズチは気合で完登。普段おとなしいミズチが吼えていた!

ちなみにこここのアプローチでレンタカーのタイヤをバーストさせてしまい、スペアタイヤに交換したり、新しくタイヤ買いに行ったり、タイヤ屋の犬に追い回されたり? してほんと面倒なことになったので、ここに行く人はアプローチに注意しよう。原因はわからんが、ホイールに石が挟まりタイヤの側面がズタズタになった。

DRUID STONE」

アプローチ急登50分とらことで前回敬遠したドレイドストーン。今回こそは」と思いつつなかなか行けず、最終日2日前になってようやく行くこととする。アプローチは確かに長いが見晴らしが良いので、精神的にそれほどきつはない。

息を切らせながらようやく行き着いた先は、まさに天上の楽園だった！

高山植物に覆われた台地に、綺麗な花崗岩の巨岩がゴロゴロしている。これなら長いアプローチをこなす甲斐があったというもの。

全体的に課題の質も高く、保持力系やパワー系の多いバターミルクと対照的にヒールフックやトゥフックなど足技を駆使するテクニカルな課題が多い。またどれも見栄えがすごく良い。

有名な「Golden Child V10」を始め、「The Sloth (V9)」、「Old Eye (V9)」、「Shock Therapy (V9)」などを登る。ティファニー=キャンベル初登の「Cayla (V7)」という課題は豪快にレプスの真ん中を抜けるパワー&テクニカルなGood課題。V7にしては難しいが、見栄えは最高。いい写真が取れること間違いなし。

私がV9をサーキットしている間に、ツヨソヨとヤナケンがドレイド最難と思われる「Lounge Lizard (V11)」にトライする。カチ系のフェースでこれまたカッコいい課題。ツヨソヨが全ムーブを解決したが時間切れ。私は今回最後たか彼らは次回また来ることを誓い、夕暮れが迫る中足早に下山した。

ある休息日にツヨソヨ、ミズチ、私の三人でV11とV12の課題があるバターミルクの奥のエリアへ行くこととした。トポを見ながらいろいろ課題を見て回るうちに、ビデオ「West Coast Pimp」で出てきた、あの鈴木英貴氏初登のハイボール「Secret Of Behave (V6)」が近くにあることを知る。せっかくだから見に行こうかと話になり、とりあえずトポの大まかな地図を頼り、山の斜面を上がっていく。尾根に出ると反対側が広い谷になっていて巨大なボルダーがひしめき合っている。

「ずー、Secret Of Behaveはどこにあるんだろう？」

とりあえずそれっぽいのをひたすらチェックして先に進むが一向に見つからない。段々道が険しくなり、岩の隙間をくぐったり、スラブを登ったり崖に突き当たったりしながらまるで巨大な迷路に入ったアリのよう進む。散々探した挙句、見つからないままついにエリアの端まで来てしまった。歩き回るし水も食料も全く持ってこなかったため腹が減りまくり。あきらめて帰ろうと思いつつトポの航空写真を見ると、今見ている風景と同じであることに気づいた。その写真を良く見ると、目的の岩はとっくの昔に通越してはるか彼方。しかもそれは尾根上の目立つところにある。

「シークレットのはずなのに全然隠れてない…。やられた！」

みんなビデオの映像と課題名から岩に囲まれた穴蔵みたいなところにあると思込み、全く気にも留めてなかった所だ。完全に意表を突かれた。その岩以外は全部見たって言うくらいあらゆる岩をチェックしたのに…。

ある意味シークレット。隠れているようで実は隠れてないところがミソ。

戻る気も起らず帰りは近くの道に出る。みんな無表情、魂が抜けかけたような顔をしている。

陽気な昼下がりに、そこは抜け殻のような3人の姿があった。